

No. 2297

見て登って眺めても良い御坂の尖峰

釈迦ガ岳

実施日 2007年4月29日(日)
天候 快晴
リーダー 涌井 良明
参加者 上野キヨ、若村貴世子、友近洋子、若村勝昭、吉田正之、服部美千代、小野節子、一柳昭、山口駿三、小池述史、馬場清土、福島政幸、涌井良明、鈴木恵美子、山崎富美恵 計15名

費用 交通費 利デパス2,300円
大月 勝沼ぶどう郷 800円
タクシー1,740円
計4,840円

コースタイム 勝沼ぶどう郷駅(8:42~50タクシー)檜峰神社(9:25~35)休憩(10:08~12)稜線上(10:52~11:02)釈迦ガ岳山頂(11:30~12:20)檜峰神社下降点分岐(13:20~22)黒打ノ頭(13:43~53)鳶巣峠(14:20~38)檜峰神社(14:52~15:00)檜峰神社バス停(15:58~17:20タクシー)勝沼ぶどう郷駅(17:38~45)

GW(ゴールデンウィーク)前半3連休の中日で好天とあって登山スタイルは目立ったが勝沼ぶどう郷下車の山々は我々だけみたいだった。駅正面には真っ白な南アの稜線が美しい。

タクシー3台にギッチリ詰まって檜峰神社へ。神社から5分ほど林道を戻って『熊出没注意』の看板のある登山口から釈迦ガ岳の登りが始まる。林道状の広い道を少し進み道標に従い山道に入る。そのうち涸れ沢の跡の様な岩ゴロの道になり、



幹に巻かれたテープや紐、たまに打ち付けられたガイド板を拾いながら高度を上げる、やがて岩ごろが左下に離れるようになると、傾斜がきつくなって来る。木の間

越しに見える稜線目がけて突き上げる急傾斜の登りになり、フィックスロープの助けを借りて登る。芽吹きは始まったばかりでまだまだ緑は少ないので、振り返ると木々を透かして高度を上げているのが分かる。

東西に連なる主稜線に辿り着き一息入れる、稜線に出たことで白無垢の頭を覗かせた富士もお供に歩けるようになる。ここから左(東)に前方の盛上る釈迦ガ岳に向けて稜線を登る、多少岩交じり

だったりするが変化があって好ましい。小テラス状の展望台?からは前日の風雨で清められた大気で、遥か北アの稜線までもくっきり見せてくれている山の一期一会に感謝し、11時半釈迦ガ岳に



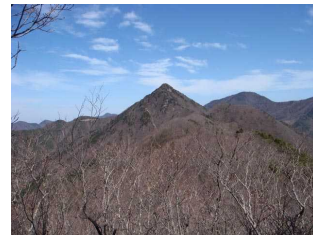
着く、スカイブルーだけを背景に際立った白さの富士を始め、南アの聖、赤石、荒川三山から白峰三山、甲斐駒、鳳凰三山、更に八ヶ岳その奥に北ア、勿

論近場の御坂山塊、奥秩父などなど、単に展望の山と言ってしまうのをはばかる様な眺めを堪能できる今日の山頂である。思い思い



の眺めを楽しみながら長めの昼食をとる、不便なこの山も好条件のこの日は思いのほか人も多い。集合写真をとって、戻る形で下山に掛かる。

山頂直下の急な下りと先程登りついた下降点と芦川方面の分岐を過ぎ西に向う、4等三角点ピークで右方向へ少し下り、小ピークを越して檜峰神社への分岐を過ぎ、小さく登降して黒打ノ頭(神座山)に着く、釈迦ガ岳の特徴ある尖ったピークがカッコイイ!



ここからは下りだけである、鳶巣峠まで50分とあったがゆっくり歩いても30分と掛からずに鳶巣峠(イッポチ峠、奈良原峠の別名もあるらしい)に降り着き『喫茶KOIKE』の営業で一同ホットしたところで、檜峰神社へ下る、道筋には沢

山のカタクリの花が我々を見送ってくれていた。檜峰神社では立派な社殿や県指定巨樹の巨大杉を見物して、朝はタクシーで登った林道を今度はテクシーでテクテクと下った。里道では、遅咲き?の桃畑なども見ながら国道137号へ、バス停はこれを渡った下の旧道にあった。ここでひとまず解散オツカレサマでした。反省会の都合を優先?してタクシーで勝沼ぶどう郷へ出て特急で八王子へ直行、反省会も盛っていました。



山、天気、メンバー、etc.全てにGoodな山行でした!!

(記・涌井 良明)